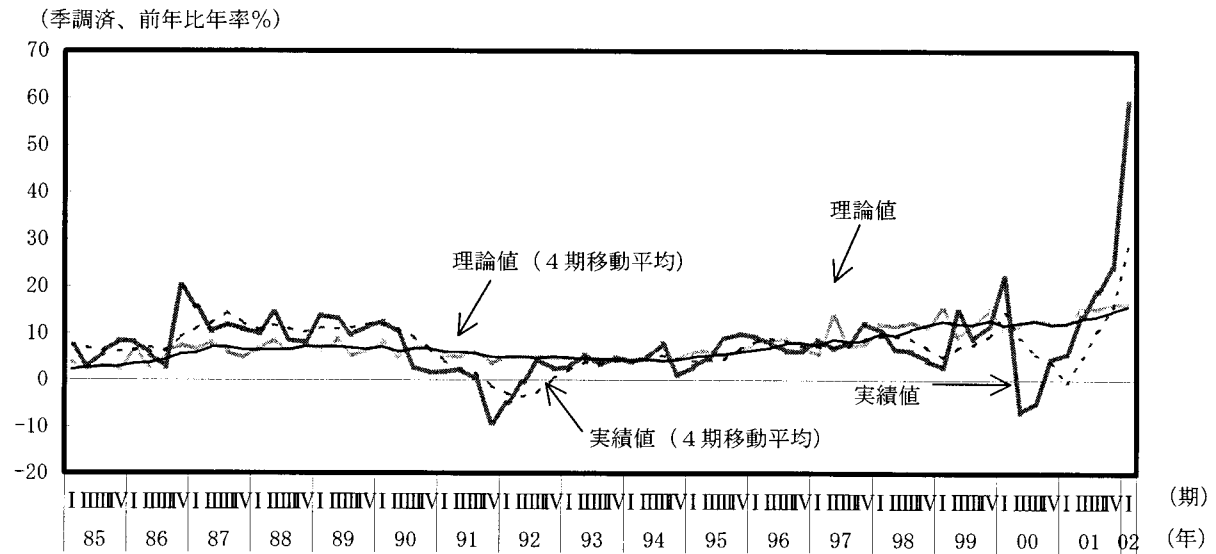


付注1-10 マッカラム・ルールとテーラー・ルール

(1) マッカラム・ルールによるマネタリーベースの成長率

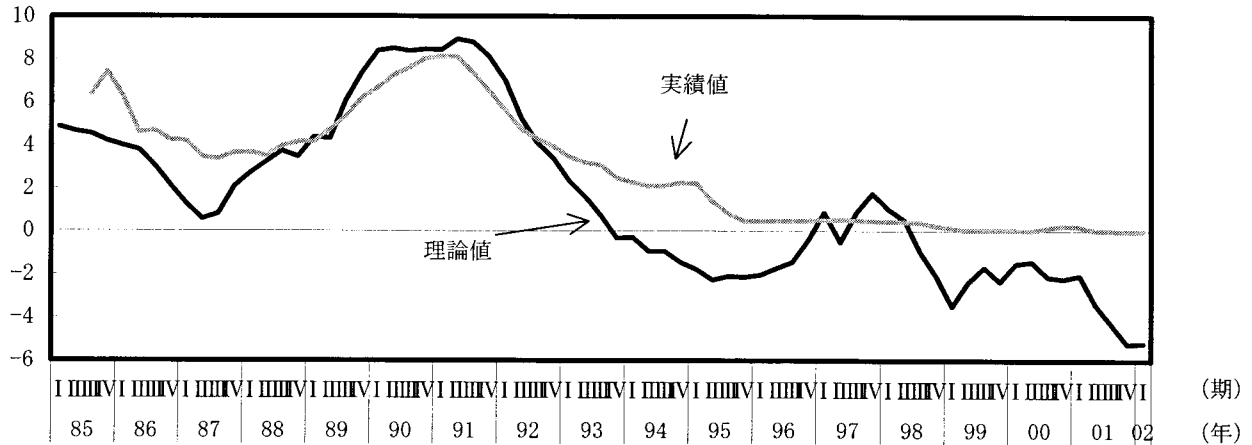


(備考) 理論値は以下の式に基づき導出。

$$\Delta MB = ng^* - \Delta V^* + 0.5 * (ng^* - ng)$$

- (1)  $ng^*$ は名目GDP成長率の目標を表す。ここでは、テイラー・ルールで用いた目標インフレ率2%と潜在成長率を用いた。
- (2)  $\Delta V^*$ はマネタリーベースの流通速度 (=名目GDP/マネタリーベース, 16期平均) の変化率を年率換算。
- (3) 潜在成長率の推計方法は、「平成13年度年次経済財政報告」(付注2-4)によった。
- (4) 参考文献 Bennett T. MacCallum(2000) 'Alternative Monetary Policy Rules: A Comparison with Historical Setting for the United States, the United Kingdom, and Japan' Carnegie Mellon University and Federal Reserve Bank of Richmond

(2) テーラー・ルールによるコールレート (%)



(備考) 理論値は以下の式に基づき導出。

$$\text{Call Rate} = g^* + \pi_4 + 0.5 * (\pi_4 - \pi^*) + 0.5 * \text{GDPGAP}$$

- (1)  $g^*$ は潜在成長率。推計方法は、「平成13年度年次経済財政報告」(付注2-4)によった。
- (2)  $\pi_4$ はCPI(全国、除く生鮮食品)の前年比伸び率の後方4期移動平均。
- (3) 目標インフレ率 $\pi^*$ は、2%とした。
- (4) GDPGAPは、 $100 * (\text{実質GDPの実績値} - \text{潜在GDP}) / \text{潜在GDP}$
- (5) 参考文献 Taylor, J.B. (1993) 'Discretion versus Policy Rules in Practice' Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy, 39: 195-214